

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室

第142回 温暖化



先生: だいぶ化学的に物質を理解出来るようになって、目には見えない世界で何が起きているか理解出来るようになったかしら？

生徒: はい、『有機』とか『無機』とか単純な話ではなく、きちんとどんな元素で構成されていてどんな特性があるかを化学的に理解することが重要ですわね・・・

先生: そうなのよ・・・『有機』の一言で片付けてしまっただけではとても危険なのよ・・・有機と言ってもどんな原料から作られているのかによって全く芝生や土壌に与える影響が違うわ・・・例えば浄水場から出る「汚泥」などは様々な物質が排水に混ざっていることが考えられるからよく調べた方がいいわ・・・重金属とか病原菌とかが入っている可能性もあるし・・・鶏糞などは餌に入っている種子が雑草として入ってくる可能性もある・・・発酵していると言っても製造が間に合わなければ十分に発酵していない場合もあるし・・・

生徒: やはり産業廃棄物ですから品質管理は難しいですよわね・・・

先生: それに芝生の成長に必要な元素、窒素が含まれる量が少ないわ・・・当然排水性も悪くなるし、土壌孔隙の空間を埋めてしまう可能性も高い・・・

生徒: やはり何を使うにしてもよく中身を調べて使わないといけませんわね・・・

先生: そういうことよ・・・しかも温暖化のせいでどんどん芝生管理の難易度が上がってきているし・・・

生徒: 本当にそうです・・・昨年もずいぶんあちらこちらで芝生が枯れてしまっているコースの話をお聞きしました・・・テレビのトーナメントでも・・・

先生: きっと今年も厳しいことになると思うわ・・・

生徒: 今後ますます気象条件が厳しくなるとすると、どんなことを考えなければいけないのでしょうか？

先生: 基本的には、今まで話したとおり「土壌条件」「管理方法」をより厳しく検討しなければいけないと思うわ・・・考えられるのは『高温』『低温』『多雨』『乾燥』の各4つの“激しい”状況だわ・・・

よりしっかりと基本に忠実に実践することが大事ね・・・

生徒: それって簡単そうで難しいんでしょうね・・・

先生: いままで説明してきたことを『総合』して管理全体を考えていかないといけないわね・・・魔法の薬で一発で解決とは行かないわ・・・

生徒: 対症療法では解決しないということですね・・・

先生: その通り・・・病気になるから殺菌剤・・・虫が出たから殺虫剤・・・雑草が出るから除草剤・・・ドライスポットが出るから浸透剤など・・・単純な発想ではなく、維持管理の中でそれらの『対応』がどう

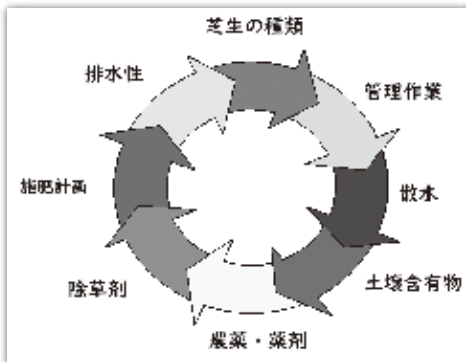
いう位置づけになるのか考えないとダメね・・・すべての管理作業は複雑に関係していることを理解しなければダメなのよ・・・例えば病害の場合、芝生は病原菌に抵抗する能力があるけど十分に光合成をしてたくさん養分があるかどうかで病気への抵抗性、回復力が大きく変わってくるわ・・・また土壌表面に有機物が沢山あって、排水性が悪く

水が滞留し、そこに高温多湿の条件が重なり・・・加えて排水性の悪い土壌では土中の空気が不足して嫌気性の病原菌、腐敗菌が短時間に大量発生し、殺菌剤撒いても間に合わず芝生が腐って枯れてしまう・・・

生徒: 夏のピシウム菌によるダメージですね・・・

先生: また土壌中の空気が不足すれば脱窒が早く起こり、また多量の雨で土壌中の養分も流されて肥料成分が不足するので回復もしない・・・病気でやられずとも排水性が悪く、根の成長が十分でなければ土壌中の虫に少しだけ根が食べられただけで芝生が枯れてしまうかもしれない・・・あるいはその両方が同時に起こるかもしれない・・・そして土壌表面の有機物が水分を抱きかかえてそこに藻が発生してくるかもしれない・・・暑いからと日中に散水することによって病原菌や藻の発生を助長し、肥料養分の溶脱をうながしてしまうかもしれない・・・そんな状態の中、殺菌剤を何度も撒くことで普段なら出ない薬害が起こるかもしれない・・・

生徒: あ～頭が変になりそうです・・・



水が滞留し、そこに高温多湿の条件が重なり・・・加えて排水性の悪い土壌では土中の空気が不足して嫌気性の病原菌、腐敗菌が短時間に大量発生し、殺菌剤撒いても間に合わず芝生が腐って枯れてしまう・・・

生徒: あ～頭が変になりそうです・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》

